



DAISUKE  
TSUDA

——— 津田 大介



## 津田 大介 | DAISUKE TSUDA

2006年 日本大学大学院芸術学研究科造形芸術 修了

### | 個展 |

2011年 Shout! / ギャラリーKingyo

2014年 Face / ギャラリーユニグラバス

2018年2020年 いりや画廊

2021年 東京ガーデンテラス紀尾井町

(主催: 株式会社西武リアルティースソリューションズ / 総合企画: いりや画廊)

### | 展覧会歴 |

2011年 宮崎国際現代彫刻展・空港展 出展  
19会展 / さいたま市プラザノース

2012年 伊豆高原ミュージアム 感無料 常設グループ展 (4月~12月)  
宮崎国際現代彫刻展・空港展 出展  
グループ展『呼応する空間』/ ギャラリーKingyo  
A-t o展 / ギャラリーユニグラバス  
木彫フォークアートおおや

2013年 宮崎国際現代彫刻展・空港展  
掌展 / ギャラリーユニグラバス  
ISA NY Art Search 2013 / New York

2014年 宮崎国際現代彫刻展・空港展

2015年 ますとみやまART 2015 / 山梨県北杜市  
雨引きの里と彫刻2015 りんりんロード / 茨城県桜川市

2016年 掌展 / ギャラリーユニグラバス  
宮崎国際現代彫刻展・空港展  
ますとみやまART 2016 / 山梨県北杜市

2017年 我孫子国際野外美術展

2018年 UNORTHDOX II / アートギャラリー一月桂樹  
ますとみやまART 2018 / 山梨県北杜市

2019年2022年 雨引きの里と彫刻 2019 / 茨城県桜川市

## 「働く事」が「生きる事」

社会や場所と対峙することで感じる「情動」が、木彫家 津田大介にとっての制作イメージです。「働く事」が「生きる事」であると  
考え、あえて激しい情動や我欲に迷走しながら生きるサラリーマンやキャバクラ嬢など、様々な人のかたちを、独特の劇画のような  
表現で制作しています。制作を続ける中で、津田は鑿や彫刻刀によって仕上げる時間軸、そして自身の生きる時間との間に存在する  
乖離に気づいた事をきっかけに、緻密に彫る手順を減らし、形を見切ることで作品の単純化を試みます。木材を『割る』ことで現れ  
る割目や、癖から生じる曲がりの偶然性を作品の表情と捉え、『削る』破片と『切る』ことで形を決定することから構成された、必  
然的な切り跡の組み合わせによる造形です。さらに色彩を加えることで、豊かな表情と力強さも備えた津田独特の表現です。

今、自分の生きている世界に対し、正対、一対、対抗、対処、対極、対戦等といった、何かと何かが対峙した時に起こる関係、動  
作でいえば、静と動、感情でいえば、喜怒哀楽、矛盾、表裏、などの相反する一対と正対する作品空間に何かを感じていただきた  
いの作家の思いが込められています。

いりや画廊学芸員 園浦眞佐子



[ 豊饒の巫女 fertility goddess ] 2022

樟 / H200×W300×D200 (cm)



[ Dancing High ] 2020

樟 / H200×W180×D150 (cm)



[ Angry Clown ] 2020

栢 / H220×W140×D140 (cm)



[ Okinawa Dragon ] 2020

樟 / H40×W35×D35 (cm)



[ Charge ] 2022

樟 / H28×W45×D35 (cm)



[ Hello ] 2022

樟 / H42×W40×D24(cm)



[ Buckward ] 2021

桜 / W85×D82×H92 (cm)